

日交研シリーズ A-802

平成 31 年度自主研究プロジェクト

「地方における路線維持、活性化を目指した乗合バスの新たな取り組み策と課題」

刊行：2021 年 3 月

地方における路線維持、活性化を目指した乗合バスの新たな取り組み

New Movements for Keeping and Activating Bus Services in Rural Area

主査 青木 亮 (東京経済大学)

Makoto Aoki

要旨

本報告書では、2019 年度の日本交通政策研究会自主研究「地方における路線維持、活性化を目指した乗合バスの新たな取り組み策と課題」の成果をとりまとめた。少子高齢化と人口減少が進展する中で、自家用車を運転できない交通弱者の足をどのように確保するかは、地域社会にとり重要な課題の 1 つである。地域における公共交通手段の維持は厳しさを増しており、従来からの事業者によるサービス提供に加え、自家用車を用いた相乗り・送迎のような住民参画による手法など、様々な施策が各地で試みられている。本報告書では、第 2 章「自動車運転免許証返納後における高齢者の公共交通利用に対する課題」で、高齢者を対象とした自動車運転免許証の返納策と、地方自治体や交通事業者による公共交通の利用促進策の関係を分析した。また第 3 章「自家用有償運送の活用によるモビリティ確保策」では、自家用有償運送の制度的背景を整理すると共に、養父市や京丹後市、ドイツの事例を取り上げた。第 4 章「雲南市におけるデマンドタクシーの推移と地域公共交通政策の展開—掛合町の「だんだんタクシー」運行から「雲南市地域公共交通網形成計画」の策定まで—」では、地方における路線維持や活性化策の事例として島根県雲南市を取り上げ、デマンドタクシーの導入、推進状況や雲南市地域公共交通網形成計画について論じた。第 5 章「地方の路線バスの変遷過程に内在した諸課題の考察」は、路線バスの種別や制度の盛衰、補助金政策などを歴史的段階毎に回顧して、路線バスの課題や低迷要因を考察した。最期の第 6 章「高校の学区制度の変化について：北海道を事例に」では、公共交通の主たる利用者であり、公共交通の影響を強く受ける高校生の通学問題について、北海道の学区制度の変化と現状、さらに学区別に通学支援施策の特徴を明らかにした。

キーワード：運転免許証返納、自家用有償運送、兵庫県養父市、京都府京丹後市、ドイツ・アルツベルク町、島根県雲南市、デマンドタクシー、地域公共交通網形成計画、ローカルバス路線の課題、北海道における高校の通学支援策

Keyword : Surrendering Driver's License, Private Paid Transportation, Yabu-city(Hyogo prefecture), Kyotango-city(Kyoto prefecture), Arzberg(Germany), Unnan-city(Shimane prefecture), On-demand Taxi service, Local Public Transportation Network Plan, Retrospect of Local Bus Service Problems, Support Systems for Commuting to High School in the Hokkaido area,